

予報期間 10月29日から11月4日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 31日は、高気圧が日本のはるか東へ移動して、日本の南に低気圧が発生する。
- 11月1日は、低気圧が発達しながら北日本付近を北東へ進む。
- 2日は、低気圧がさらに発達しながらカムチャツカ半島付近へ進む。大陸の高気圧が黄海付近へ移動して、日本付近は西高東低の気圧配置となる。
- 3日は、高気圧が本州付近へ移動する。
- 4日は、高気圧が日本の東へ移動し、日本の南から東シナ海は気圧の谷となる。

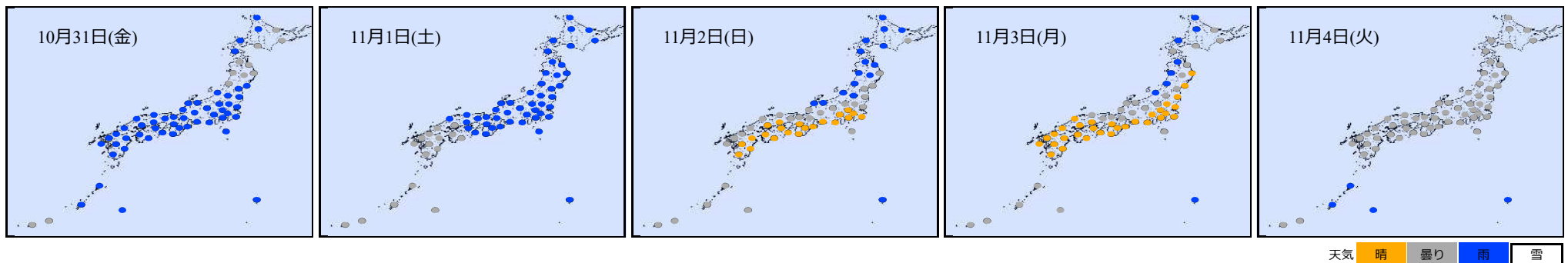
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 31日は、暖かく湿った空気が東・西日本太平洋側に流れ込み、11月1日は低気圧が発達しながら北日本付近を北東へ進む見込み。このため、西日本は31日に、東日本は31日から1日にかけて大雨や荒れた天気となり、暖かく湿った空気の流れ込みの程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。また、北日本では1日から2日頃にかけて、発達する低気圧の影響で大荒れとなり、低気圧の発達程度等によっては警報級の大雨や大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

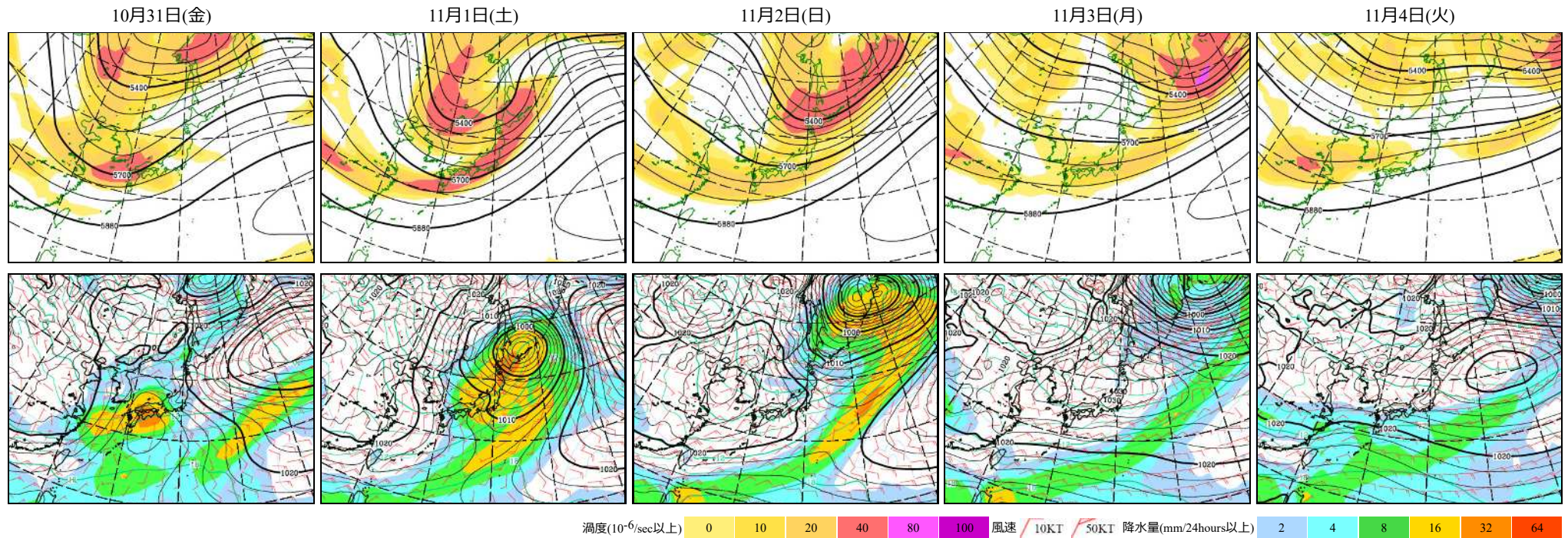
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

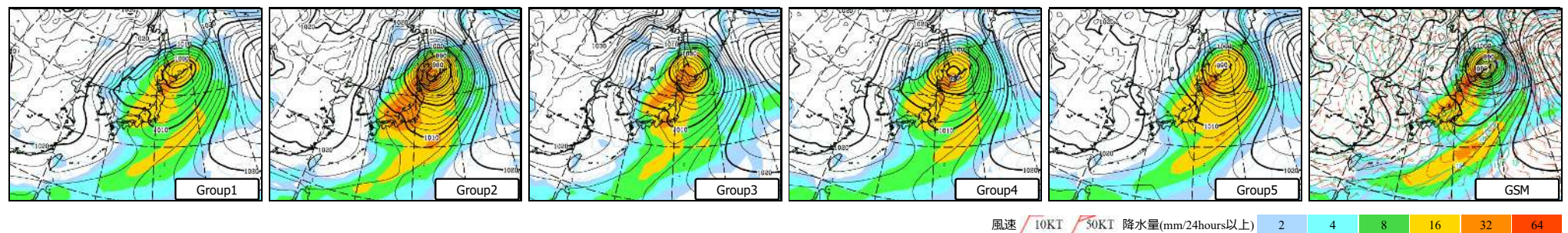


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、31日と11月1日は雨の降る所が多く、2日から4日は晴れまたは曇りとなる。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、31日と4日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月1日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、31日から11月1日の発達する低気圧については初期値変わりは小さい。3日から4日に日本付近から日本の東へ移動する高気圧の勢力が強まった。
- 1日の低気圧については、低気圧の発達が強まったモデルもあるが、初期値変わりは比較的小さいモデルが多い。また、ENS平均図では不明瞭だが、2日は日本海に低気圧が発生する予想もあり、3日頃に低気圧が北日本付近へ進む可能性がある。
- スプレッドは、期間の後半はやや大きく、2日以降は各特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。